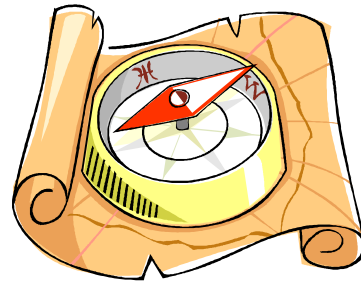


面舵いっぱい！



2007年4月、新しい「伊丹丸」は、
未来への夢をのせて、大航海に旅立ちます。

今、教育は大きなうねりの中にあります。

子どもたちの学力の低下、いじめや非行、不登校など多くの課題があります。

でも、本当に今の子どもたちはそんなに変わったのでしょうか。

だれでも、はじめは子どもでした。そして、子どもの時はみんな大きな夢を持っていたはずです。大人になった今も、夢を持ち続けているのでしょうか。

毎日、新聞を見ていると、「大人としての品格はどうなったのだろうか？」と思う事件に出くわします。

街角で、お母さんが子どもにかけ言葉の鋭さに「どきっ」とすることがあります。

電車の中での、大人のマナーにも、顔をしかめることがあります。

「大人がまず変わらなければ、子どもは変わらない」「大人が学び続ける姿勢を見せないと、子どもは学ばない」「大人が未来への夢を持たなければ、子どもも夢を持ってない」今、私自身が感じていることです。

たしかに、波静かな航海の日は少ないかもしれません。行く手の波は高く、船は簡単には進みません。順風満帆の時もあれば、何日も風が吹かず、前に進めない時もあるでしょう。時には、嵐の日があるかもしれません。大海原で、進むべき方向がわからなくなる、そんな時もあるでしょう。

だからこそ、船の進むべき方向を示してくれる羅針盤が必要なのです。

私たちは、この度、今後10年間の伊丹の教育の指針となる、「伊丹市教育ビジョン」を策定しました。

このビジョンが、私たちの進むべき方向を示す羅針盤となることを願っています。

そして、「新伊丹丸」に乗船するすべての人々が、この夢と目標を共有し、ともに力を合わせて、舵を取っていきたいと思います。

さあ、私たちは、希望に胸をふくらませ、新世界に向けて船出しようではありませんか。

水平線の彼方には、きっと「学ぶことの幸せ」が待っていると信じています。

面舵いっぱい！（右方向へ） 取り舵いっぱい！（左方向へ） ヨーソロー！（直進）

平成19年4月

伊丹市教育長 中西 幸造